

16:1 レビの子であるケハテの子イツハルの子コラは、ルベンの子孫であるエリアブの子ダタンとアビラム、およびペレテの子オンと共謀して、

16:2 モーセに立ち向かった。イスラエルの子らで、会衆の上に立つ族長たち、会合から召し出された名のある者たち二百五十人も、彼らと一緒にあった。

16:3 彼らはモーセとアロンに逆らって結集し、二人に言った。「あなたがたは分を超えている。全会衆残らず聖なる者であって、【主】がそのうちにおられるのに、なぜ、あなたがたは【主】の集会の上に立つのか。」

16:4 モーセはこれを聞いてひれ伏した。

16:5 それから、コラとそのすべての仲間とに告げた。「明日の朝、【主】は、だれがご自分に属する者か、だれが聖なる者かを示し、その人をご自分に近寄せられる。主は、ご自分が選ぶ者をご自分に近寄せられるのだ。」

16:6 こうしなさい。コラとそのすべての仲間よ。あなたがたは火皿を取り、

16:7 明日、【主】の前でその中に火を入れ、その上に香を盛りなさい。【主】がお選びになるその人が、聖なる者である。レビの子たちよ、あなたがたが分を超えているのだ。」

16:8 モーセはコラに言った。「レビの子たちよ、よく聞きなさい。」

16:9 あなたがたは、何か不足があるのか。イスラエルの神が、あなたがたをイスラエルの会衆から分けて、【主】の幕屋の奉仕をするように、また会衆の前に立って彼らに仕えるように、ご自分に近寄せてくださったのだ。

16:10 こうしてあなたを、そして、あなたの

同族であるレビ族をみな、あなたと一緒に近寄せてくださったのだ。それなのに、あなたがたは祭司の職まで要求するのか。

16:11 事実、一つになって【主】に逆らっているのは、あなたとあなたの仲間全員だ。アロンが何だからといって、彼に対して不平を言うのか。」

16:12 モーセは人を遣わして、エリアブの子のダタンとアビラムとを呼び寄せようとしたが、彼らは言った。「われわれは行かない。」

16:13 あなたは、われわれを乳と蜜の流れる地から連れ上って、荒野で死なせようとし、そのうえ、われわれの上に君臨している。それでも不足があるのか。

16:14 しかも、あなたは、乳と蜜の流れる地にわれわれを導き入れず、畑とぶどう畑を、受け継ぐべき財産としてわれわれに与えてもいない。あなたは、この人たちの目をくらまそうとするのか。われわれは行かない。」

モーセも神の前には不完全なものに過ぎません。しかし主からの使命を受けて、その使命を全うしようとする者には、主の守りがあります。指導する者もされる者も、また助ける者も助けられる者も、状況の中で使命を果たすことは尊いことです。コラたちの主張は人間中心に考えればもっともに聞こえます。「全会衆残らず聖なるもの」であって、モーセとアロンだけが特権を持つことは平等性を欠いています。しかし彼らの動機はどうも不信仰と妬みであったようです(13節以降)。

モーセは指導者としての使命を正しく全うできたので、主から認められたのだと思われます。彼は言い争うことはしないで、「ひれ伏し」て、謙遜と主への従順を表わしました。そして主の判断に委ねたのです。

私たちは自分が正しいと思えるとき、または論争に勝てると思えるとき、相手を説得しようとしてしまいがちですが、それは人間が勝ったことにしかりません。主に委ねましょう。そのような信仰を持った人を主は認めてくださいます。主の最善がなされます。

コラと共謀したダタンとアビラムの主張は事実を歪めたものでした。自分たちが奴隷で死と隣り合わせであったエジプトを「乳と蜜の流れる地」と言い、「荒野で死なせようとし…君臨」と極端に歪曲した表現をし、「あなたは…導き入れず」と民の不信仰の結果をモーセに責任転嫁しています。神様から離れた思いで人を批判しようとする、このように歪曲と責任転嫁をするようになります。気を付けましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

